

平成28年度 第3回 合同研修会

- 1 日時 平成28年6月15日(水) 9時10分～16時30分
- 2 場所 旭川市立朝日小学校
研究授業 2年2組 算数「長さ(1)」 2年2組教室
研究授業 3年1組 書写「たて画(土)」 3年1組教室
ALPS合同研修会 図書室
研究協議 図書室
- 3 参加者 講師 北海道教育委員会上川教育局 義務教育指導班 遠藤主査
旭川市教育委員会教育指導課 常盤主査
朝日小学校 中山 玉井 櫻井 北島 木村 町田 福嶋 他全職員
新町小学校 亀掛川
永山西小学校 須賀
近文小学校 三浦 長瀬
大有小学校 石川

4 概要

(1) 2年算数「長さ(8時間扱い3時間目)」

○本時で育てたい資質・能力

『長さの大きさについての感覚を豊かにする』ひもの長さを調べながら、長さの大きさの量感を養う。

○本時の目標

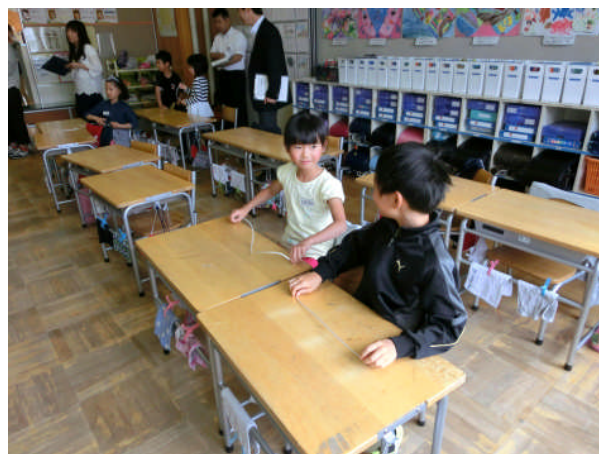
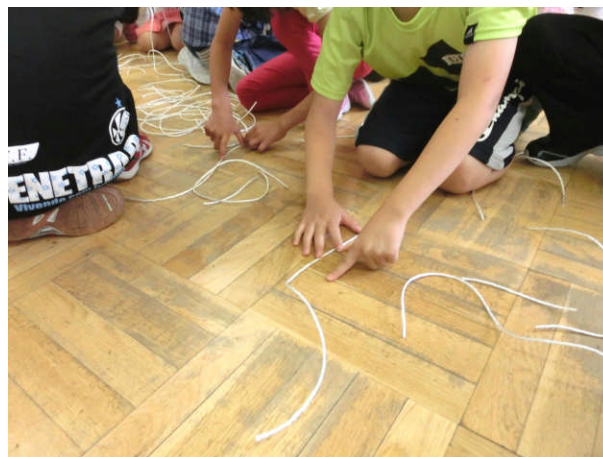
長さの単位「センチメートル(cm)」を理解し、おおよその見当をつけてひもの長さを調べるなど、長さの大きさについての感覚をもつ。

○授業の様子

前時に学習したセンチメートルを生かし、自分の手の指を開いた長さであるおおよその10cm「手の10cm」(センチの名人技とした)を使って、たくさんあるひものの中から40cmの長さのひもを探すという、センチの達人からの挑戦状問題を解決するために、自分で選んだひもを隣の人と比べて話合いながら40cmの長さを見つける活動が中心でした。

*より協働的に深く学ぶ工夫

長さの大体40cm(合格すると更に新たな挑戦状で多様な長さに挑戦)についてペアで考え、話合い、合意形成する活動の時間を十分確保することで、これまで学習した直接比較やいくつ分による比較、もう少し長い・短いなどを根拠にした活動が見られました。メモリテープがなくても、大体の長さ「*0cm」を見つけることができました。



(2) 3年書写『漢字の筆使いをたしかめよう
「たて画」(15時間扱い3時間目)』

○本時で育てたい資質・能力

「一二」の書き方との違いに気付き、縦画の筆使いに気を付けて「土」を書いている。

○本時の目標

「縦画」の筆使いに気を付けて書いている。

○授業の様子

前時に学習した「一二」の振り返りから、横画を書くときの注意点について確かめた。

「一二」の書き方を生かして、まず1枚

「土」を児童に書かせました。この文字よりも本時の学習成果が表れるように、縦画についての注意を教師のデモンストレーションとして行い、「先生と勝負だ!」と本時の課題意識を高めました。

*強い課題意識を持たせる工夫

「一二」と「土」の書き方の違いについて教師のデモンストレーションを通して確認させました。また、自分の作品と教師のお手本を比較させ、ズレ(ギャップ)を意識させることで、強い課題意識を持たせるようにしました。さらに、個別での机間指導により、個に応じた具体的な指導を行いました。



(3) ALPS合同研修

授業参観後に、図書室でALPSとしての研究の進め方や各協力校での課題等について交流しました。

①今年度の活動についての確認

昨年のALPSの成果であるアクティブ化シートの視点を授業で具体化することについて、朝日小だけではなく、連携校でも実施することを確認しました。お互いに授業研究交流も可能な限り行います。

②授業づくりで困っていること

指導案の様式について交流しました。基本は、本日の朝日小の指導案をベースにすることになりました。特に子どもの実態には、見取りが大切なのでより個のイメージを大切にすることとなりました。



(4) 研究協議(朝日小とALPS合同)

参加者を「算数グループ」と「書写グループ」に分けました。参加者一人一人が付箋紙に本時の授業について良かった点や改善点について記入する時間を10分間程度取り、次に張り付けた付箋紙を基に話し合いました。

各グループの協議内容について代表者が発表し、全体で質問や意見の交流を行った後、講師のお二人から助言をいただきました。

①算数授業について

前時の学びを生かした挑戦状や、ペア活動のルール「○自分で1本選ぶ ○ペアの人と相談する ○本当の長さ確かめる」があったので、算数的活動として成立していたのではないかと。

ALの視点として「思考が深まっていくような十分な時間を保障する」だったが、実際には、導入場面での数々のしかけが有効に働き、45分間子どもたちが「長さ」を意識して学び合う意欲をもたせることにつながっていました。

改善点としては、ペアでうまく活動が進められない(今回1ペアありました)場合に、指導者が見取りや個別指導できるように、確かめコーナーやTT指導などを工夫できるとよかった。終末の指導場面では、もっと具体的に「どんな話し合いをしたのか」「どうやって見つけたのか」などの交流や振り返りがしっかりできるとよかった。などの意見がありました。



②書写授業について

前時に学習したこと「一二」での横画を書くポイントについてしっかり確認した上で積み重ねての縦画の学習となっていたことがよかった。

教師のデモンストレーションで、圧倒的な迫力だけではなく気持ちを込めている表情などにも児童が気付けるような工夫がされていてよかった。

なんとんでも学級の雰囲気よかった。担任と児童との人間関係がしっかりしていてよかった。

改善点等では、授業スタイルについて、今回あまりにも楽しく立ったまま書かせていたことについての質問がありました。(いろいろなスタイルがあってよい。立って書くと自然に筆が立つ。)

導入場面でかなり多くの情報を伝えていたが、今回はしっかりした横画縦画だけではなく、バランスの良い作品が完成できていた。ポイントを絞る指導についてはどうか。指導者が筆使いの技術が十分でない場合には、どんな工夫ができるのか。などについて話し合いました。



③講師助言から

- ・より協働的で深く学ぶのは、ただ話し合いをさせるのではなく、どんな情報をもった人がどんな話し合いをするから、何ができるなどの意図的な授業が大切です。
- ・より主体的に学ぶには、見通しでゴールのイメージをもたせることだけではなく、「どうやってとりつこうか」というプロセスのイメージも重要です。
- ・アクティブ化シートBを広く全道に普及したい。ぜひ、成果と課題をまとめてほしい。
- ・深い学びについては、得た知識を活用してゴールでのイメージとして、納得や統合、具体や適用などの子どもの姿が見られる。ただし、形式にこだわると子どもが分からないままとなる、課題を大切に、すべての子どもたちが授業のねらいを達成できることが重要だと思っています。